

令和 6 年度学校評価（最終評価）

重点目標	学習に対する姿勢を整え、学力の向上を図るとともに、家庭や地域との連携を踏まえた学校教育活動全般の改善に努め、凛として清々しい個と品格ある校風づくりの確立を目指す。また、職員間の協力体制の在り方を検討し、勤務時間の適正な管理と教職員の適切なメンタルヘルスに努める。 1 家庭や地域から信頼される学校づくり 2 生徒の夢を実現できる学校づくり 3 品格ある校風づくり 4 教職員の健康維持に配慮した体制づくり		
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	(1) 防災体制の構築と、防災意識の強化。 (2) P T A の連携の在り方の考察と推進。	(1) 従来の防災教育・防災対策に加え、防災講話などを取り入れ、震災など自然災害について考えさせることで、生徒、保護者、教職員の防災意識を向上させる。 (2) S N S などの活用を含めた P T A の連携体制を強化する。	(1) 全校による防災避難訓練を 2 回実施。7 月に、豊橋市役所防災危機管理課の職員による防災講話を実施した。また、今年度は愛知県の高大連携の一環として、高校生防災セミナーに参加して、防災避難訓練の改善を話し合い、来年度に向けて良い機会となった。 (2) きずなネットを利用し、PTA 活動の連絡や集約を効率的に行うことができ、連携強化につながった。来年度も継続していきたい。
教務部	(1) 新校務支援システムの活用の研究。 (2) 効果的な評価・評定の活用。	(1) 新校務支援システムの活用による、校務のスリム化に向けた検討をする。 (2) 新指導要領における観点別の評価・評定の基準を明確にし、生徒の学習活動の活発化、学習効果へ結びつける。	(1) 校務支援システムを活用することで校務のスリム化・効率化を進めることができた。その他の校務についても効率化を進めていきたい。 (2) 観点別の評価・評定の基準を明確にして進めることができた。生徒の学習活動の活発化、学習効果へ結びつきについては、「自ら学ぶ力の育成」の研究も含め来年度につなげていきたい。
進路指導部	(1) 生徒の進路目標の確立と実現に向けての指導。 (2) チームとしての進路指導の推進。	(1) 生徒の進路意識を向上させるため、日頃より進学に関する情報収集に努め、教職員と共有を図る。また、生徒の高い進路目標に向け、効果的な進路説明会の実施や基礎学力のさらなる定着を図る。 (2) 地域との連携を推進する。また、保護者向け進路説明会や保護者会を行い、保護者との連携を充実させる。	(1) 新課程になって最初の年ということで、外部から得た情報を共有して進めることができた。多岐にわたる生徒の進路に対応するしきみを構築していきたい。 (2) 保護者向け進路説明会を通して最新の情報を提供することができた。また、地元にある豊橋創造大学で実施することで保護者は大学の雰囲気を感じることができたのではないかなと思われる。今後は内容を検討していきたい。
生徒指導部	(1) いじめ防止対策。 (2) 高校生らしい身だしなみと交通安全意識の向上。 【特別活動】 (1) 生徒会を主体とした校内外の体験的な活動への積極的参加。	(1) いじめを防止するために、他の分掌と連携を密にして、全職員で取り組む。 (2) 各月の身だしなみ指導の設定と交通モラル及び自転車乗車ルールの遵守を図る。 (1) 学校行事への取組意欲を高めさせ、生徒自身が積極的に行動するようにさせる。ボランティア活動への積極的な参加を促す。	(1) いじめ防止及びいじめ対応のために分掌・学年と連携を密にして取り組むことができた。 (2) 身だしなみ及び交通安全について定期的に生徒へ働きかけることができた。 生徒会執行部や各委員会の生徒を中心に、多くの生徒が主体的に行事に参加できた。また、積極的にボランティア活動に参加する生徒が増えた。
情報研修部	(1) I C T を活用した授業展開と校務での積極的な利用を進める。 (2) 生徒用タブレットの管理方法について研究し、事故のないように努める。	(1) 情報通信支援員の支援を得て学校での I C T 活用にも有効な研修を企画し、実施する。 (2) ネットワーク担当者の仕事を分散し、タブレットとその付属品に関する管理を共有できるようにする。	(1) ICT 支援員により校内研修（ロイノートスクール、OneDrive）を行い、教員のスキルアップを図ることができた。 (2) 校務支援員の絶大な支援があり、生徒用タブレットの管理ができた。
保健厚生部	(1) 生徒保健委員会活動の活発化 (2) 生徒全体の健康や清掃に対する意識の高揚。	(1) 教室の換気や手洗い徹底させ、感染症予防を図る。また、非常災害における防災意識の向上と個人で出来る準備を図る。 (2) ゴミの分別の徹底およびゴミの減量化を図る。また、環境美化に努める。	(1) 保健委員が中心となり、換気・手洗いの奨励など感染症予防を行うことができた。また、文化祭を利用して、防災意識および非常災害時携行品の意識向上を図ることができた。 (2) HR での奉仕作業を通して学校全体で環境美化に取り組むことができた。また、清掃の徹底も図ることができた。

	【教育相談・特別支援教育】 (1) 教育相談および支援が必要な生徒の情報の共有化と早期の対応。	(1) 欠席の多い生徒の情報を収集し、早期に対応する。相談室の利用を促進する。スクールカウンセラーとの連携を密にする。	(1) 欠席数や学校生活の様子から、教員間の情報共有を図ることにより早期に対応することができた。また、スクールカウンセラーについても有効に活用することができた。
生活文化科	(1) 各コースの特性を活かした魅力ある授業内容の精選。 (2) 地域と連携・協働したスペシャリストを目指す生徒の育成。	(1) 各コースの特性に応じた実践的・体験的授業の充実を図り、資格取得を目指す。 外部講師による講習会を実施し、より専門的な知識・技術の確実な習得を図る。 (2) キャリア教育の充実を図り、社会人・職業人として必要となる基礎的・汎用的能力を身につけさせる。 インターンシップにおいて、事前・事後の学習に力を入れ、成果発表会を実施し、生徒のキャリア形成と関連づけさせる。	(1) 第1学年から基礎的・基本的な知識・技術の定着を図り、上級学年では、外部講師による各種講習会を実施するなどして応用へと発展させた。より高い学習目標の達成を目指し、資格取得に結びつけることができた。 (2) 高大連携事業やインターンシップ、進路ガイダンスを積極的に活用し、キャリア教育の充実を図った。学年に応じた進路研究の機会を設定し、生徒の意欲的なキャリア形成を促すことができた。
第1学年	(1) 高校生としての常識ある生活態度の育成 (2) 主体性を高めるHRづくり。 (3) 学習指導・進路指導の強化 (4) 横のつながりを持ち、まとまりの学年団を目指す。	(1) 生活指導の徹底。あいさつ、身だしなみ指導、遅刻指導、清掃指導、携帯指導の徹底。 (2) HR活動、生徒会、学校行事などの活動への積極的な参加。 (3) 望ましい学習態度と基礎学力の向上を図る。教室の整理整頓、日々の授業を大切に作る習慣をつける (4) 生徒、保護者、学年、教科、各分掌との密な連携をしていく。	(1) 学年として目線をそろえた指導を行うことで、まとまりのある集団に成長できた。 (2) 学校祭をはじめ多くの行事に前向きに参加することができた。各クラスの創意工夫がよくみられた。 (3) 教室や廊下の環境を整え、学習に集中できる環境を整えることができた。 (4) 日頃から教員間での情報共有を行い、多くの教員で対応ができた。きめ細かな連携が図れたことで仕事もスムーズにできた。
第2学年	(1) 社会人としての基礎力の養成。 (2) 将来を見通し、前向きに学校生活に取り組むことができる人材の育成。	(1) 基本的生活習慣を確立させる。授業規律を徹底し、教室環境を整備する。 (2) 進路目標を明確にさせ、学習だけでなく部活動や学校行事にも積極的に取り組ませる。	(1) 教室環境を整えることを意識し、準備時間や授業規律を守ることで、良い学習環境を整えることができた。 (2) 修学旅行をはじめ、積極的に行事に参加し、主体的な取り組みができた。進路目標も明確になり、目標達成のための学習に取り組むようになった。
第3学年	(1) 社会人としての基礎力の確立。 (2) 個人の能力伸長と進路目標の実現。	(1) 基本的生活習慣と規範意識を確立させる。社会性や公共心を育成する。 (2) 学力を充実させ、進路目標を実現させる。特別活動に積極的に取り組ませる。	(1) 多くの生徒が遅刻、欠席も少なく学校生活を送ることができた。周囲の状況を鑑みて行動できる生徒が多く、集団として前向きに行動することができた。 (2) 受験に際し、各自のやるべきことに真剣に取り組ませることができた。学校行事も前向きに取り組む生徒が多かった。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・家庭や地域から信頼される学校づくりを目指した方策と実践について ・特色ある学校づくりとともに、地域との連携について ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組について ・在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともにストレスチェックの結果の活用等を通じて教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努めることについて	